－医療従事者の方へお知らせ－

コミュニケーション障害の評価法（観察式）の紹介
日本語版 Pragmatic Rating Scale の開発を行いました
評価票は[こちら](#)

著者 藤本憲正（大和大学），中村光（岡山県立大学） ら

適応範囲

成人の脳疾患後

※ 失語症を有する場合は、軽度失語症以上

特徴

- ・わが国で初めての、成人を対象とした観察式の語用論的コミュニケーション障害(※)の評価尺度です
- ・15～20分で評価できます
- ・保健医療福祉業務に関わる従事者の方に使用できます
- ・観察式であるため、特別な道具は必要としません

語用論的コミュニケーション障害とは？

脳損傷などの後遺症によって、失語症のような、聞く・話す・読む・書くことに問題はなく、文法的にも聞くことや話すことができるにもかかわらず、「かみ砕いて説明しないと伝わらない」、「冗談が通じない」、また患者自身も「話がそれる」、「話が長い」など、会話が成立しにくくなることがあります。これを語用論的な言語障害といいます。つまり、コミュニケーションにおいて「何が言いたいのか？あるいは、何を言おうとしているか」の発話意図を推測しながら、会話を進めることが極端に困難になる言語障害といえます。

この語用論的なコミュニケーション障害については、その障害を捉える評価方法が日本ではなく、また介入方法も未確立であるため、復帰した日常生活で支障をきたしています。今後、その介入方法を開発していくために、語用論的コミュニケーション障害を正確に捉えるための評価法を開発しました。

(※)興味のある方は、藤本まで